課題別評価表（5）

取組課題	担当名・指導部名／担当者名
人権教育	人権教育担当　／　石川　ひろみ
取組の柱 1　互いの良さを認め合い、それぞれの持ち味を活かしな　がら、生き生きと活動できるような学級集団づくりに取り組む。 2　身の回りにある問題に気付き、解決しようとする児童を育成するとともに、教師自らの人権感覚を高めるための研修を深める。 3　児童の実態を把握し、それぞれの課題を解決するために、保護者との連携を図る。	実態把握 本校は、多くの友だちとかかわり、支え合うことができる関係を築ける環境にある反面、たくさんの出会いに、不安を抱く児童も少なくない。学校生活において、多くの児童は友だちと楽しく活動しているが、中には担任・教員を通して友だちとかかわろうとしたり、限られた友だちといることで自分の居場所を作ろうとしたりする児童もいる。その根底には、自分に対する自信が持てず、友だちとかかわり合う力が弱くなっていることが考えられる。児童がお互いを大切にし、かけがえのない存在として認め合うことができるよう、子ども一人ひとりの思いを知り、子どもや学級の課題を把握し、その解決に向けて、あらゆる教育活動を通して思いを聞き合い、語り合う学級集団づくりに努めている。

評価方法	教職員アンケートを中心とする 教職員による自己評価 （項目により対象の幅は異なる）
達成度の判断基準	教職員の評価の平均 Ａ　：　３．５以上　４．０以下 Ｂ　：　３．０以上　３．５未満 Ｃ　：　２．５以上　３．０未満 Ｄ　：　２．５未満

評価項目　（具体的な取組）	評価規準	達成度			
		中間	中間	年度末	年度末
1.互いの良さを認め合い、それぞれの持ち味を活かしながら、生き生きと活動できるような学級集団づくりに取り組む。	日記の交流を行ったり、『ほめ言葉のシャワー』を行ったりするなど、子どもと子どもをつなげる活動を月２回以上行うことができた。（教職員アンケートからの評価具体的な取組を記述）	3.6 A	3.5 A	3.7 A	
2身の回りにある問題に気付き、解決しようとする児童を育成するとともに、教師自らの人権感覚を高めるための研修を深める。	いじめや差別をなくそうとすることや、自己肯定感を育むことをねらいにした人権学習を年間3回以上実践するとともに、『学級集団づくり実践交流会』や『保幼小中人権教育研修会』を通して、自らの人権感覚を高めることができた。（教職員アンケートからの評価）	3.7 A	3.3 B	3.7 A	
3児童の実態を把握し、それぞれの課題を解決するために、保護者との連携を図る。	児童の実態を把握したり課題を解決したりするために、連絡帳や家庭訪問等を通して、保護者との連携を図ることができた。（教職員アンケートからの評価）	3.7 A	3.5 A	3.7 A	

達成度については、 A:十分に達成できた　B:おおむね達成できた　C:あまり達成できなかった　D:達成できなかった

中間評価		年度末評価		昨年度からの（来年度への）申し送り
9月末の達成状況	総合評価	12月末の達成状況	総合評価	
1　各学級の特色を生かしながら、安心できる学級づくりをめざして、学級遊び・係活動・お誕生会に取り組み、子どもどうしを繋げ、自己肯定感を高めることを目指して、質問タイム・ほめ言葉のシャワー・今日のキラキラさん・いいことみつけに取り組んでいる。 2「人権教育研修会『南が丘小中一貫人権教育カリキュラムを生かした学級集団づくり』」や、南が丘中学校区夏季合同学習会講演会を行い、教師自らの人権感覚を高めるように努めている。 3　日々保護者との連携を図るように努めている。11月には人権学習授業参観・学級懇談会を予定している。子どもたちの学びを保護者や地域の方にも発信していきたい。	A	1 2 3		1.互いに認め合い、それぞれの持ち味を活かしながら、生き生きと活動できるような学級集団づくりの実践 2.身の回りにある問題（差別）に気づき、解決しようとする児童の育成 2.自己肯定感を育むことをねらいとした取組の推進 2.教師自らの人権感覚を高める研修の充実

総合評価については、 A:達成度の過半数がA　C:達成度の過半数がCまたはD　B:AとCの間